

Global Conference 2018 報告書



2019.8.14 - 19

オランダにて開催

CISV 日本協会

I. 開催概要

- グローバルカンファレンスとは

グローバルカンファレンス(Global Conference, Glocoとも略される)は2015年から始まった全世界規模のCISVの集会です。ここではCISV全体に関する会議や、プログラムおよび支部を運営していく上で参考になるような内容の研修、および話し合いが行われます。主な参加者は、各国国際理事、各支部支部長、各地域のコーディネーター、国際事務局員(International officeのスタッフ)、JBの代表(日本からはSr.およびJr. NJR)、3年に一度開催され、今回はその2回目。次回は2021年に行われます。



- 日程: 2018年8月14日-8月19日

- 開催国: オランダ (フェルトホーフェン)

会場はオランダ南部のアイントホーフェン郊外のフェルトホーフェンにあるNH アイントホーフェンカンファレンスセンターというホテルで、今回のような大人数の会議を開催できる大きなホテルでした。ちょうどその時期日本では歴史的な猛暑でしたが、オランダは大変涼しく、小グループで行われるリフレクシヨングループの集まりでは、ホテルの中庭を利用することもできるほどの気候で、とても快適に過ごすことができました。

- テーマ: 『New Horizons: 新たな展望』

CISVは今、もっと多くの人に、このすばらしいプログラムを知ってもらい、多くの人に影響を与えられる存在になることを目標に掲げていますが、それには実際にプログラムを運営し、デリゲーションを派遣している各支部が大変重要であると考えています。今回の会議はその各支部の草の根的な活動をさらに発展させ成長させることを目的にしたものです。



- 参加国: 56カ国

- 参加人数: 527名

- 日本からの参加者: 10名

関東支部: ◎ * 平洋一、▶ * 野田百合子、○ * 木村緑、* 福德滉太、* 青木 采里奈

東海支部: ○ * 大門樹久世、* 武藤有為

関西支部: ○ * 野上良治、深井美貴子

九州支部: ○ * 竹田津宏子

なお記号は各助成金受理者を示す。

◎国際理事としてコストシェアリングに参加

▶国際からの補助金

○支部長(代理)としてコストシェアリングに参加

* 日本協会からの補助

※コストシェアリングとは:

全世界からの参加のため、会議の開催場所がどこかによって、交通費の不均衡が生じ不公平になる。それを防ぐために作られたシステムで、開催国からの距離によって、参加費が減免される。その財源はグローバルカンファレンスのための積立から支出。

- 参加費: € 575 (ツインルーム使用時)
- スケジュール:

TUESDAY, AUGUST 14	14:30 - 16:00	REGISTRATION	
	16:30 - 18:00	REGISTRATION	INTERNATIONAL JUNIOR BRANCH ORIENTATION: JBERS AT THE GLOBAL CONFERENCE Flora Gurgel, Pipa Raimundo & IJR Candidates Strongly recommended for all JBERS.
	18:00 - 20:00	DINNER	
	20:00 - 21:30	WELCOME SESSION	

WEDNESDAY, AUGUST 15

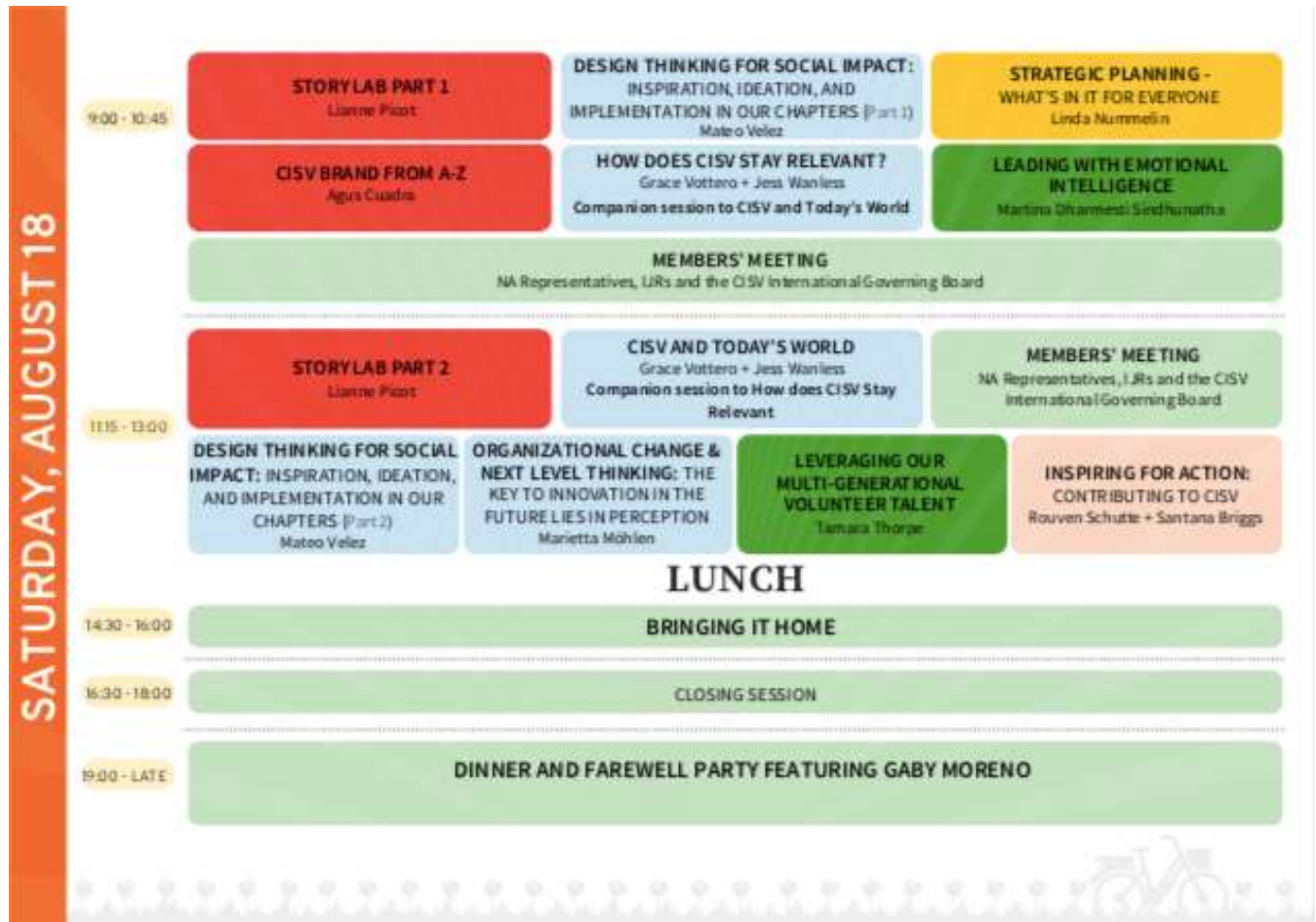
9:00 - 10:45	OFFICIAL OPENING & KEYNOTE SPEAKER Craig Kielburger ME to WE: Engaging the Next Generation of Change-makers		
11:15 - 13:00	KEYNOTE Q & A Craig Kielburger	ORGANIZATIONAL CHANGE & NEXT LEVEL THINKING: THE KEY TO INNOVATION IN THE FUTURE LIES IN PERCEPTION Marietta Möhlen	SELF-EMPOWERMENT FOR A NEW WORLD THROUGH DIALOGUE: STRENGTHENING LIFE SKILLS DURING TIMES OF DIVISION And Wächter
	CISV AND BEYOND: USING MY CISV EXPERIENCE TO GROW MY CHAPTER AND A CAREER Tamara Thorpe	HOW DOES CISV STAY RELEVANT? Grace Vottero + Jess Wanless Companion session to CISV and Today's World	CULTURAL COMPETENCE AND LEADERSHIP Anders Wulff + Marty Petrone
LUNCH			
14:30 - 16:00	BROADENING OUR HORIZON: BRIDGING TO NEW TARGET GROUPS Annelies Overliet + Miranda Pieron	WHAT IS CISV'S ROLE IN RESPONDING TO GLOBAL EVENTS? Rachel Kück + Christy Hornedell	CISV AND TODAY'S WORLD Grace Vottero + Jess Wanless Companion session to How does CISV Stay Relevant
	CISV AND BEYOND: USING MY CISV EXPERIENCE TO GROW MY CHAPTER AND A CAREER Tamara Thorpe	DESIGN THINKING FOR SOCIAL IMPACT: INSPIRATION, IDEATION, AND IMPLEMENTATION IN OUR CHAPTERS (Part 1) Mateo Velez	EXPLORING DIVERSITY: THE CONTENT AREA OF 2018 Flora Gurgel + Luisa Lima
16:30 - 18:00	CULTURAL COMPETENCE AND LEADERSHIP Anders Wulff + Marty Petrone	DESIGN THINKING FOR SOCIAL IMPACT: INSPIRATION, IDEATION, AND IMPLEMENTATION IN OUR CHAPTERS (Part 2) Mateo Velez	FROM VISION TO VILLAGE: THE FOUNDING OF CISV Brett Vottero
	UNDERSTANDING GENDER DIVERSITY Blair Lockhart + Jose Bassila	WHAT KIND OF PEACEMAKER AM I? Tiago Basto + Esperanca Peixoto	WHAT MAKES AN ACTIVE GLOBAL CITIZEN Madeleine Le Bourdon
18:00 - 18:30	REFLECTION GROUPS		
DINNER			
20:30 - 22:00	FILM SCREENING AND DISCUSSION		IN BETWEEN GENERATIONS / COMMUNITIES OF INTEREST

THURSDAY, AUGUST 16

9:00 - 10:45	VOLUNTEERS, THE HEART AND SOUL OF CISV Discussion Panel		WHERE WE ARE AT: JB SELF-EVALUATION TOOL (JB SET) Flora Gurgel, Pipa Raimundo & IJR Candidates Mandatory for all JBers
11:15 - 13:00	VOLUNTEER ENGAGEMENT: FROM STRATEGY TO PRACTICE Barbara Sêrvulo Herthel	LEVERAGING OUR MULTI-GENERATIONAL VOLUNTEER TALENT Tamara Thorpe	VOLUNTEER PIPELINE: KEEPING THE ORGANIZATION STAFFED THROUGH RECRUITING AND SUCCESSION PLANNING Enwin Gadijs
	THE ART OF GIVING AND RECEIVING EFFECTIVE FEEDBACK Mark Floriss	LEADING WITH EMOTIONAL INTELLIGENCE Martina Dhammisti Sindhuhantha	THE IMPACT OF VOLUNTEER ENGAGEMENT Jen Devolder
			HOW TO TAKE THE MOST OUT OF CAMPS: ENHANCING THE BENEFITS OF HOSTING Bruno Gonçalves
	LUNCH		
14:30 - 16:00	SUCCESSFUL PARTNERSHIPS - PANEL DISCUSSION	CREATIVE PROGRAMMING PANEL DISCUSSION	INTERNATIONAL JUNIOR REPRESENTATIVE (IJR) CANDIDATES Q&A Mandatory for all JBers
	CO-HOSTING - WHY AND HOW Anders Wulff + Ueska Givens-Sink		EDUCATIONAL CONTENT: How Do We Do Better? Santana Briggs, Natasha Clarita & Luisa Lima
16:30 - 18:00	WHY AND HOW TO BUILD RELATIONSHIPS WITH PARTNERS - AND WHERE TO GET STARTED Denise Farrer	EVERYONE SMILES IN THE SAME LANGUAGE: HOW A CISV CHAPTER AND A SCHOOL COMMUNITY CAME TOGETHER TO WELCOME AND SUPPORT REFUGEE CHILDREN Stephanie Hawkins	STRENGTHENING THE BONDS OF FRIENDSHIP - LOCAL CAMP IN SAO PAULO Luciana Claes
	CISV'S INTERNATIONAL PROGRAMMES Governing Board Strongly recommended for NA Representatives	MOSAIC AND PESTLE: GRINDING FOR SUCCESS Alvin Parreño	VERDA PÅ STORD: A PROJECT TO PROMOTE DIVERSITY AND RAISE PROFILE Inger Sævi (IR) Hagen + Andrea Gundersen
18:00 - 19:30	REFLECTION GROUPS		
	DINNER		
20:30 - 22:00	DUTCH CULTURAL ACTIVITIES		

FRIDAY, AUGUST 17

9:00 - 10:45	UNDERSTANDING CISV FINANCES AND FINANCIAL ROUTINES Roman Parazi	LOGIC MODELS: A PLANNING TOOL FOR YOUR CHAPTER Leah Donelan	WAS THAT A MISTAKE OR AN OPPORTUNITY? RESILIENCY THROUGH CISV RISK MANAGEMENT Stephanie Teichman
	BUILDING A CHILD SAFE ORGANIZATION Emma Powell El-Gammal	STRATEGIC PLANNING: WHAT'S IN IT FOR EVERYONE? Linda Nummelin	STRATEGIC PRIORITIES FOR CISV Governing Board Strongly recommended for NA Representatives
	RETROSPECTIVES FOR ACTIONABLE LEARNING Frank Steffen		FUNDRAISING FOUNDATIONS: DEVELOPING INDIVIDUALS & ALUMNI DONORS Denise Farrer
	CULTURAL COMPETENCE AND LEADERSHIP Anders Wulff + Marty Petrone	WHAT IS CISV'S ROLE IN RESPONDING TO GLOBAL EVENTS? Rachel Kuck + Chrissy Howedel	
11:15 - 13:00	FACTS TELL, STORIES SELL - HOW AND WHY NON-PROFITS TELL THEIR STORIES WITH VIDEO Nick Lavery		A JOURNALIST'S PERSPECTIVE: TIPS ON HOW TO REACH NEW PEOPLE WITH CISV STORIES Emilia Askari + Bryce Owens
	STORY LAB PART 1 Lianne Picot	SERVAS INTERNATIONAL - EXPLORING COMMON CHALLENGES Jonny Sölginger	INTEGRATION IN PROGRESS - WHAT ARE THE NEXT STEPS FOR JUNIOR BRANCH? Santana Briggs, Pipa Raimundo + Rouven Schulte
	LUNCH		
14:30 - 16:00	STORY LAB PART 2 Lianne Picot	SOCIAL MEDIA AS AN ENGAGEMENT TOOL IN THE MILLENNIAL AGE Aaron Mejia	CISV AND BEYOND: USING MY CISV EXPERIENCE TO GROW MY CHAPTER AND A CAREER Tamara Thorpe
	ALUMNI ASSOCIATION: AN INTRODUCTION Denise Farrer	LET THE WEB WORK FOR YOUR CHAPTER Thom Kurtz + Katarina Schwarzer	CISV BRAND FROM A-Z Agus Guadix
16:30 - 18:00	STORYTELLING: THE POWER OF OUR CISV STORIES PANEL DISCUSSION		
18:00 - 19:30	REFLECTION GROUPS		
	DINNER		
20:30 - 22:00	CISV STORY SLAM	PUB TRIVIA	COMMUNITIES OF INTEREST
			INTERNATIONAL JUNIOR REPRESENTATIVE ELECTION Mandatory for N.JRs



II. 参加者の感想

武藤有為(あるの)

Jr.NJR

IIBC初参加

私は今回初めてGlobal Conferenceに参加しました。今年一年、Jr.NJRとして活動してきた集大成ともいえる行事でした。

スタッフが出迎えをしてくれた空港で参加者の人数を聞いたところ、なんと500人以上いるとのこと、これにまず私は驚きました。結局527人もの参加者が世界中65か国から集まり、とても盛り上がる行事となりました。世界中からCISVという共通点しか持たない老若男女が集まっていると考えると考えるだけで不思議で貴重な空間でした。



毎日行われるセッションやその日の振り返り、食事の際にはJBだけでなく、さまざまな経験を持つ大人の方々ともお話しする機会が多く、自分の視野がまた広がったように感じました。また、今まで自分が参加した国際プログラムであるVL、SC、JC、TEA、JASPARC全ての行事で関わった人との再会があり、個人的にとっても嬉しかったです。また、アジアパシフィック地域のつながりの深いJBとより仲良くなることができたこともとても良かったと思います。

青木采里奈(さりな)

Jr.NJR

IJBC初参加

8/14~19の間、IJBCがオランダにて開催された。今回は初めてのIJBCであったがGlobal Conferenceと同時に開催された事もあり、JBのためだけのセッション以外にもCISVに関する様々なセッションに参加したりCISVに関わる大人たちとの交流がたくさんもてたことはとても良い機会であった。

完璧に思えたIJBCを運営していく上で少し問題があったことが私にとって少し言葉が悪いが面白いと思えた。IJBCチームの中ではJBとCISVは異なった組織であるという見解であったため、そのことでJBがJBのためのセッションに参加しないということが問題視された。私にとってのCISVは自分にプラスになるようなインスピレーションがもたらされる場所であるべきだと思うので、自分の興味のあるセッションに参加することは良いことであると考えたが、私と同じ考えのJBもかなり居たので議論が長引いたこともCISVを想う気持ちの強さの表れであると思う。普段JBの中でしか活動しない人が大人達の中にまぎって様々なジャンルのセッションをうけ、井の中の蛙であったことに気がつきショックだった、などの話をきくとおさら「JBとはなにか」「CISVとはなにか」というセッションを耳にたこができるほど聞いてきた、或いは考えてきたJBにとってはGCとIJBCを同時に開催したことはとても大きかったのではないかなと思う。



私にとってNJRとして参加するのは最後の国際行事であったため、なおさらCISVやJBとの関わり方を深く考えさせられたGC/IJBCであった。日本のJBを背負っていることを意識するとかなり緊張して最初は大変だったが、ルームメイトでインドネシアのナディアやJASPARCで知り合ったJBの友達、CISV JAPANの皆さん、NJRのふたりの優しさと面白さのおかげで想像以上に楽しい時間を過ごすことができた。私は国際のプログラムにはVLLしか参加したことはなかったが、なんとそのときのJCとスタッフがGCに参加

していたのである。実に10年ぶりの予期せぬユニオンに驚きつつもお互いの近況を話し合うのは本当に尊い時間だった。またFarewell partyの最後にCISVソングが流れたとき、JASPARCではそんなに話す機会がなかったが今回のIJBCでDutch Cultural Eveningのチームが一緒であったり、一緒にスーパーマーケットに行ったり、一緒に騒いだり一番話す機会の多かったオーストラリアのSr.NJRであるクリスティが「My best friendサリナ！国際のプログラムで絶対一緒にリーダーをやろうね！」と言ってくれた瞬間、私の「帰りたくない病」が発動した。日本のJBに伝えたくても伝えきれない国際JB行事のありがたさがシンプルではあるが、そこにあると私は強く思う。JBのゴールがアクティブJBを増やすことだとしたら、国際でリーダーやスタッフをして子どもたちに友情のありがたさを教えて行くことが必要である。その前にこのような尊い友情のありがたさを実感できたのは小さなことのように見えるが、とても大きな経験であった。シンプルな感想になってしまったが、私にとっての素直な気持ちである。CISV以外でもこのような一期一会はいくらでも存在するが、CISVだからこそ起こりえる、CISVのおかげで得られるそのような奇跡的な一期一会が私は単純に大好きで、そのような経験ができるようにCISV JAPANに貢献していきたい。



福德滉太(こうた)

Sr.NJR

IJBC参加2回目

3年に1度の世界中のCISVerが集まるCISV最大のイベントGlobal Conference、今回はGlobal Conferenceと世界中のアクティブなJBが集まるIJBCが同時に開催され、全体の参加者数は500名を超え私が参加したCISVのプログラムの中で最大のものとなりました。

また、昨年のIJBCでは世界中のJBとしか会うことができず、APRW/JASPARCではアジアパシフィック地域のCISVerにしか会うことができませんでした。しかし今回のGlobal Conference/IJBCでは普段のCISV活動では出会うこともないような世界中様々なNA/PA、チャプターのCISVerに出会うことができました。違う文化圏に住み、違う宗教を信仰し、違う文化で育ちながらも、CISVのミッションである“CISV educates and inspires action for a more just and peaceful world.”というミッションを達成するためにCISVがどのように活動しているかを感じることができました。

また、2016年にジュニアスタッフとして参加したわっしょいビレッジにスペインのリーダーとして参加していたPuliがスペインのNJRとして活動し、開催期間はルームメイトとして過ごすなど、CISVを通じ世界が急に近く感じるような出来事もありました。一方で、セッションへの参加を通じCISVについてもっと深く知ると同時に、各NA/PA、各チャプターの動向や現状などの情報や意見を直接交換することができました。

そもそものセッション数や選択肢、ファシリテーターの多いGlobal Conferenceであったためセッション自体の内容も濃く、得たものが多いGlobal Conferenceでした。最後に、今回お世話になったGlobal Conferenceの参加者、開催国のCISVオランダ、すべての皆さんに感謝です。ありがとうございました。



木村緑(緑さん、みどり)

関東支部長代理,IPP部会長

GC参加2回目

3年ぶりにまたこの場に戻って来た、と感慨に耽る間も無く大きな波に飲み込まれるかのようにオランダでのグローバルカンファレンスが始まった。グローバルカンファレンスは、世界中から集まる各国の支部の皆さんと一緒に、CISVという組織をあらゆる角度に光をあて、分析して、噛み砕いて、議論して、学んで、ヒントをたくさん貰って、友を得て、最高に楽しむ5日間の会議といったものだと思う。セッションは、プログラム内容、支部の運営、寄付の集め方のヒント、募集方法、CISV国際について、CISVの教育内容など多岐にわたる。各セッションは、自分の興味から選ぶことができ、その中で世界の支部の仲間から色々な意見を聞くことができるのが、素晴らしい経験である。国が違えば事情が違うから「そういう風に考えるのか」と感心したり、「みんな同じようなことを考えているな」と安心したり。セッションだけではなく、ランチタイムに隣に座った参加者と話し、夜のイベントやインド独立記念日、オランダデイのお祝アクティビティなど盛り沢山であった。運営側、参加者共通して、CISVを良くしたい、お互いを理解したいという熱い気持ちに触れることができて嬉しかった。

印象に残っている2つのことがある。1つは、ジャーナリストのセッションで、ラジオ番組を想定してCISVについてインタビューを受ける、という場面を練習した時、「人の繋がりが大事。自身の体験を率直に語ること、それが最も効果的」と話してくれたのが印象に残る。「なぜCISVを続けているのか」という問いに友人が話す内容はああ、

なるほどと心を打つ内容だった。こうした多勢の人によるCISVストーリーがあってこの組織は強く繋がっているのだと感ずることができた。

もう1つは、ゆりぼう(野田百合子さん)と国際事務局のHelenがIPPのセッションを急きょ設定し、世界各国のIPP関係者が集まって情報交換することができたこと。IPPに携わる者として何より嬉しいことだった。実際に顔を見てIPPについて語り合える最高のひと時で、個人的にはゆりぼうと共に作った2つのIPPショートムービーを皆さんと共有できたのもいい思い出となった。

私は、不覚にも前半は高熱で寝込んでしまい、予定していたセッション全てには出られなかったのが残念であった。その時、日本の参加者(医師の竹田津さんを含めて)の皆さんにはとてもお世話になり、メキシコのエンリケ(医師)が心配して診てくれて、オランダのスタッフは薬を調達してくれた。本当に感謝している。予定通りにはいなくても、予定した以上の素晴らしい5日間だった。私を送り出してくれた日本協会ははじめ関東支部の皆様にも心より御礼申し上げたい。



大門樹久世(大門さん、きくよ)

東海支部長

GC参加2回目



今回で2回目の参加でしたので、前回より少しGlocoの様子がわかり、大変充実した時間を過ごすことができました。今回も世界のCISVerが一堂に会す様子は本当に壮大で、CISVの組織の広がりを感じました。

セッションでの話し合いでは同感することが多くありました。私も支部長としての経験を話しましたが、どの支部も同様の問題を抱えながらも、その支部なりの努力でプログラムを開催したり、派遣したりしていることを聞き、他の支部長の皆さんとの連帯感を感じました。そして、それにもかかわらず世界中で毎年毎年プログラムが開催されているのは素晴らしいことだと思いました。

また、あるセッションでは、現在の対立する世界の中ではディベートではなく、対話が重要であるということが話し合われました。何か決断する際に使う方法として、西洋社会ではディベートが高く評価されています。しかしいつも答えがあることを前提とするディベートは、相手に耳を傾けるのは、相手の非を見つけるため、という攻撃的な手法です。一方穏やかな雰囲気の中で行われる対話は相手を知り自分の視点を広げながら、参加者皆で合意に到達しようとするものです。そして色々な点で両極化が進んでいる今こそ、この対話が必要だとの趣旨でした。まさしくその通りだと感じました。私たち日本人は基本的にはそのようなものの見方をしてきましたと思いますが、今では攻撃的な話し方がよいと思われる場面も多くなってきましたので、日本人でもその点を意識する必要があると思います。世界レベルでなくてもJB、LTC、そして委員会といった身近なところで、応用可能な大変重要な考え方だと思いました。足元から初めてそれが世界に広がって行けばCISVの目標としている世界平和へ繋がるだろうと思います。

学ぶことの多いとても有意義なカンファレンスでした。ありがとうございました。

野上良治(野上さん、パンチョ)

関西支部長

GC 初参加

2016 年の関東で開催された APRW に続き 2 回目の国際プログラム参加でした。3 年前の APRW では APAC(国や支部の代表が参加する会議中心のプログラム)に参加し、思っていた以上に英語が話せない自分にびっくりしながらも日本協会の皆さまの協力を得てなんとか自分が思っていたタスクは達成できてスッキリ終わることができました。

今回の GC で思っていたことは 1)GC 前のアンケートに「ビレッジを開催するのはスタッフを集めるのとキャンプサイトを確保するのが大変だからせめて 3 週間にしてほしい」と書いていたので、同意者が少なくて意見を求められたら頑張らなきゃということ、2)せっかく殆どの国の人に参加するのだから、関西支部がよく派遣するまたはすぐに派遣する国や支部の代表の方にお礼を言いたいと言うことの 2 点でした。

1)に関してはそのアンケートをもとに国際プログラムに関して話し合うセッションに参加しました。分かったのは皆同じことを考えているということで、ビレッジに関しては「開催期間が一番長いので他のプログラムよりホストすることが難しい」と一つトピックになってました。3 週間云々という細かい話にはならなかったので頑張らなくても大丈夫でした。その他も「ユースミーティングは 15 日間のプログラムに派遣したいけど、ホストするのは 8 日間が良い。」とか考えることは変わらないなと思いました。

2)に関しては実は思っていたようにできなくて心残りです。特にポルトガルは関西から毎年よう派遣していて、私の長男もビレッジで行って、はづきとジョゼのこともあるし、話すことも考えていたのに動けなかった。背中いっぱい魚のイラストを描いた T シャツを着たポルトガルの方たちがたくさん固まって隣りにいたこともあったのに。またいつか。

その他では、

- ・ ほんとに巨大なイベントで、これをボランティアでやったことに敬服します。ありがたいです。
- ・ 初日に 10 人前後でグループ分けされて、毎日夕食前に集まるリフレクシヨングループはとても良かったです。そこで何か言うためにちゃんとワークショップに参加しなきゃ！というのもあるし、膨大な参加者の中でもしっかり顔を覚えて親交を深めることができました。
- ・ CISV への参加者を 2030 年までに 2015 年までに少なくとも 2 倍にするという国際目標に関西支部が貢献するにはモザイクプログラムをやることだなと思いました。
- ・ GC の始まりは時差ボケがあったり、緊張したりで低調に入りましたが、GC のシステムや雰囲気にもだ

んだんと慣れてゆき、後半はとても楽しめました。支部でも話が出ましたが、期間が短いプログラムで時差が大きい場合は派遣でも受け入れでも積極的に前泊を入れるのは有効だと思いました。

- ・ 最終日は最後のリフレクシヨングループでのミーティングである Bringing It Home、功労者を表彰する Closing Session、夕食での 500 人を超える参加者でのキートス、CISVer である Gaby Moreno のライブと素晴らしかった！この Global Conference に参加する機会を与えていただいたことに感謝します。ありがとうございました。



深井美貴子(深井さん、ミキ)

GC 参加 2 回目

GLOCO 2018

August 14-19

NH Conference
Centre
Koningshof,
Eindhoven

3年前のノルウエーに続き、2度目の Global Conferenceが
オランダ南部Eindhovenにて開催されました。



世界中の支部が集い分かち合う場

2015年のノルウェーGloco参加者は447。
今年のオランダは加盟国69のうち、なんと、
65カ国、527人の参加。全体ミーティン
グで、「初めてGCに参加する人」と言われ立
ちあがった人は全体の4分の3に見えた。

10代から70代くらいまで、赤ちゃん連
れも含め様々な人が集い、ともに学び、シェ
アし合い、語り合う場。まさに今年のテーマ
「Diversity」にふさわしい貴重な空間・時間
だった。

広いホテルの大小様々な部屋を使って、毎
日朝から晩まで非常に中身の濃いセッション
やワークショップ、会議の数々が開かれた。

アムステルダム空港からシャトルバスで
1時間30分の大きなホテル。



日本チーム10人集合！



「今回得て帰りたいもの」を書いた紙をかざす
とCISVの文字が浮かび上がりました。

写真でGloco報告 Miki

感想：成長を感じる場

Mikiko Fukai(Miki Kansai)

★GCは大人になってからの成長を感じる場です。

2011年春に初めてAPRWに参加、その年の夏にはインドネシアでのAIMに参加しました。3年前のGLOCOと比較しても、今回自分自身随分成長したなあと感じます。この報告書を書く直前にゆりぼうに、「それはどんな点で？」と尋ねられ、紐解いてみたことを書いてみます。

まず英語力。これは確実にのびました。特に今年は、小さな輪の中だけでなく、大人数の場でも質問をしたり意見を出したりできました。以前よりもっと「間違えることは恥ずかしいことではない」と思えましたし、「必ずわかってもらえる」あるいは「これは必ず皆に伝えたいことだから」と自信を持って話すことができました。セッションに参加していても、以前よりずっと内容を理解していると感じました。

コミュニケーション力に関しても同様です。既にたくさんの友人がいますので、安心して新しい人とも出会うことができました。リフレクショングループでも3年前より、ついていけない感が減りました。食事やコーヒブレイクや夜の時間に、たくさんの仲間と時に熱く、時に冗談を言いながら話しかけることができるのも、国際の場の特徴です。みんな、本当に暖かく、年齢問わずINCLUSIVEを体現しています。また、今年は自分自身の在り方で、周りが心地よく楽しい気分になれるよう努めていました、心にも頭にも少し余裕ができたからかもしれません。

★感激したことをシェアさせてください。

二日目の夜、部屋に戻ろうとした時、グアテマラの若い男女二人が私を両方から羽交い締めにして「さ、ミキ、飲みに行くよ」と言って私をバーに連れて行き、自分たちが誘ったんだからとビールをおごってくれました。その時に「あなたはドリスアレンだと思ふ」と彼女が言ったので、驚いて「なぜ？」と聞くと「みんながあなたのことを知っていて、あなたのことを好きだから」と言いました。あまりにも驚いて、鳥肌がたちました。また、最後の夜に、「あなたはとっても楽しくて面白いからあなたのクローンを連れて帰りたい」とあまり話したこともないブラジルの女の子に言われました。別のマダムからは「あなたのフォトセッション（全員集合写真撮影のこと）とってもよかったわ。みんなうるさかったのに、あなたの言うことはみんな聞いたわ。3階からのあなたのジェスチャーも面白かったし、ただの撮影じゃなかったわ」と言ってくれた時も、「ミキはいつも笑っているね」と言われた時もまた驚きました。私はNATIVE ENGLISH SPEAKERではないので、表現はいつも大げさにしていましたし、大声ではっきり伝えるようにしていました。そういういろんなことが、たくさんの人を楽しませていたのならとっても嬉しいです。それを口に出して言ってくれることにも感謝でした。私のことを「オカアさん」と呼ぶ人もまた増えました。

★そのままの私を許してくれる場です。

こんな風に国際の場では自然と笑顔になってしまいます。もちろん大変なことも哀しくなることもないわけではありません。しかし、そのままの私でいることを許してくれる場がここにあります。ビレッジでそのままの自分を受け入れてもらえたことで、帰国後の日常でも自分らしくいられるようになっていった我が子や、たくさんのキッズのように、私にとっても、CISV国際の場は「私が私でいい」のだと教えてくれた場です。意見が違ふ、それはそれとして、皆が皆のことを好き、と感じられる場です。



竹田津宏子(竹田津さん、ひろこ)

九州支部長代理

GC 初参加

九州支部から支部代表として国際会議に初参加させて頂きました。

まずは貴重な機会を与えて頂いた事に感謝します。

今までは、支部の保護者という立場で活動していただけでしたので、文化の違いや言語の違いを超えて、ボランティアでCISVに関わる方々が570人も参加している事にまずは驚きました。仕事ではない事に時間をかけるのが、私にとってはCISVが初めてで、自分自身が毎日 時間と闘っているのに世界は広いとはいえ、地球規模の組織である事をあらためて認識した事から始まります。セッションを通じて知ったことは、国の大小、支部の大小の違いはあれ、どこも同じような壁にぶつかって同じ悩みを多少は共有している事でした。どう壁を乗り越えていったのか、どうもがいているのか、支部レベルの進歩の過程に大変参考になる情報を頂いたことは確かです。

仕事上で一番大切にしている社会貢献ですが、CISVでは活動そのものが社会貢献です。

CISV参加者を増やし、世界の住人として責任を持って生きていく事に気づく機会をプレゼントする事が 私達大人にできる事の一つであると、今回のカンファレンスで自分のCISV活動の意味を見つける事ができました。

これから支部に持ち帰り、支部の発展のために、改善点をメンバーと話し合い、会員数2倍という国際レベルの目標に貢献できるよう今後の支部活動に活かしたいと思っています。幸いな事に、今年はビレッジ派遣児童の親でもあるので、新メンバーにとっての現在の九州支部が、さらに魅力ある組織となれるよう、近い目線でもフィードバックしたいと思います。



平洋一(平さん、よういち)

国際理事

GC 参加2回目

NH Hotel Eindhoven というオランダのかなり大きなホテルで開催された Global Conference2018 は527名の参加があり大盛況の会議であった。8月14日から19日の間ホテルの外には一歩も出ず、もっぱらセッションを楽しむことができた。しかし、あまりよくわからないというか、価値を認めにくいセッションがあったのも確かである。Creative Programme というパネルセッションでは何人かの支部代表がプログラムの経験を話したのであるが、どこがCreativeでなにが問題であったのかはほとんど理解できなかった。またDesign Thinkingという何か新しいやり方を説明してくれるといったセッションは結局何の価値も見



決するための基礎力を磨くのは大切であると思った。

Global Conference で最も印象的であったのはオランダの文化を知ることでできた Culture night セッション。そこでは全員が7人くらいのチームに分かれて、知識や運動能力を競い合う。なんと麻袋

いやり方を説明してくれるといったセッションは結局何の価値も見いだせなかった。一方で新しいSNSのツールの使い方や、音声だけで自分の経験を伝える方法、またEmotional Intelligenceのセッション等はかなり役に立った。最近行われたUS Open テニスを見ていると、それぞれの選手が特定の局面でどのような心理状態にあるのか思いを巡らすこともでき、ほかの場面でも参考にできそうである。ただ心理面だけでは問題は解決できないので、それを解



に足を入れてジャンプしながらのパン食い競争や、微妙な水運び競争、絵を見て画家の名前を当てたり、絵を描くだけである言葉を当てさせるゲームなどなかなか息を抜けないものであった。最後に得点の上位の 2 チームはそれぞれ 2 人でバットに入った水を口に含んで空にする。我々のチームはこの最後の挑戦の栄光に接することはなかったのは幸いであった。

野田百合子(ゆりぼう)

副国際理事

アジア太平洋地域支部開発コーディネーター

GC参加2回目

グローバルカンファレンスは 2 回目だけど、ここはいつも私をわくわくさせてくれる。APRW とは似ているようでやっぱり違うグローバルカンファレンス。まずは何といっても 500 人という人の多さが圧倒的だ。知っている人もたくさんいるけど、知らない人もまだまだたくさんいるというこの状況。世界中から集まった CISVer たちは、見た目も違う、背景や経験も違う、行動スタイルも価値観も違う。その多様性は APRW よりも鮮やかだ。でも共通の話題、喜びや悩み、そして共通の友だちがなんて多いことか。こんなに違うように見えるのに、わかりあえる瞬間がいくつもあったのもうれしかった。そして私は APRW では APAC という会をホストしたり各国とミーティングしたりして、いつも忙しくしているのだけれど、今回グローバルカンファレンスでは特別な役割がなくて自由に動き回れたのもまた気持ちがよかった。これは IPP の参加者をしたときの心境に似ている。スタッフにはスタッフの喜びがあるけれど、ただの参加者だからこそ味わえるこの解放感。「やらなきゃいけないこと」をやるんじゃないで、

「やりたいこと」を気の向くままやればいい、だからこそより主体的に楽しめた気がする。今回のグローバルカンファレンスでうれしかったこと。リフレクショングループのリーダーとして自分のグループの 10 人に、毎日楽しくおしゃべりして、ときには真剣に聴き合うような小さなコミュニティがつくれたかなと思うこと。IPP Community of Interest をホストして、IPP のことが大好きな世界の仲間と語りあったり、IPP の魅力をたく



さんの人に伝えられたこと。普段メールだけでやりとりしている各地域の同僚 Chapter Development Regional Coordinators (CD ReCos) や Chapter Development Committee の仲間たちと顔を合わせて、話ができたこと。すごい人にたくさん出会えたと同時に、すごいと思っていた人の人間的な一面が見えたのも印象的だった。メールでだけ、あるいは顔と名前だけ知っていた人とも話ができて、人としてつき合えるような関係になったのも大きな収穫。そして日本チームのみんなとここでの刺激を共有しあえたこと。たくさんのキャンプ仲間と再会できたこと。新しい友だちができたこと。。

CISV をつくっているのは「人」だ。どんな変化も結局は「人」

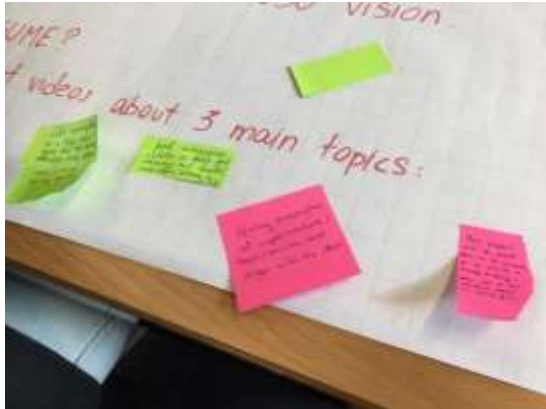
がつくる。だから人に投資しよう。そんなグローバルカンファレンスの試みはとても成功していると思う。この場にみんなが少しずつ何かを持ち寄り、互いに刺激合うことでそれが何倍にも増えて、みんなが持ち帰れるたくさんのおみやげができた。CISV の底力をあらためて実感した 6 日間だった。

III. 印象に残ったセッションとその内容

武藤有為(あるの)

Jr.NJR

さまざまなセッションがある中で特に印象に残ったのは、自分の興味関心のあることを CISV 活動に生かしていくというセッションです。そのセッションではまず、できるだけ自分が知らない人と近くの席に座って自分の興味



関心のあることなどについて話します。そして、次にその中でいくつかを書き出していき、その書き出したものの分野が近い人同士でグループを作ります。そして、そのグループごとの興味関心を生かせるモザイク活動のような新たな活動を考えていくというセッションでした。私は今まで CISV 活動の中での経験や得られたスキルや知識を CISV 内や自分の私生活に生かしていくことは考えていました。しかし、今回のセッションを通じて自分の私生活で得られる経験などを CISV 内に還元することができるのだと感じました。

青木采里奈(さりな)

Jr.NJR

私が一番印象に残ったセッションは、JB self-Evaluation Tool(JB SET)である。まずあらかじめ IJBC 開催前にとっておいた JB に関するアンケートをその場にいる全員で確認した。マルチチャプター (一つの国につき2つ以上の支部をもつ)、シングルチャプター (一つの国につき一つの支部しかもたない) とそれぞれどのくらい新しいアクティブ JB を招待できているのか、各国の JB がどのくらい IJB チームやリージョナルチームとうまく連携がとれているのかなど各国の JB の JB としての自覚や国際 JB 行事への関心度などの分析が数値によって明確化された。そこからいくつかの問題点を抽出し、NJR 含む参加者の JB 全員で解決策を話しあった。わたしは数ある問題点のうちのひとつである「情報」に関するグループで話し合った。それこそ私自身が NJR として参加する前は JB のための国際プログラムの存在は全く知らなかったし、私と同じ境遇の JB はごまんという。もはや国際 JB 行事に参加したことのない JB からすれば JB として国際行事に参加することの意義を見いだせていないアクティブ JB さえいる。そのような JB は国際行事に参加すれば話は早いのだが、日本の JB は既に国内行事で忙しいこともあり時間がないう上に自分の英語力に自信を持っていないため国際行事に参加する余裕がないのである。もっと国際行事に興味を持って貰うにはどうすればいいのか、どのように国際行事に関する情報を拡散すればいいのかを話し合った。まずグループ内ではヨーロッパやアメリカの JB は「IJB などの存在は知っていたが Sr.NJR になる前は IJB などの国際行事は正直言って自分には関係の無いことだったしどうでもよかった」という意見が多数見られ、アジアや一部のヨーロッパの傾向としては「英語が第一言語ではない国は言語の問題はどうしてもはずせない」ことなどがあげられた。そもそも数あるリソースが各所にちらばりすぎていることが最大の問題であることもあげられ、もっと同じような内容でまとめたり、各国の言葉でまとめたり、NJR だけしか見る機会のないリソースを更に各国の JB の目のつくところに提供してもいいのではないかという話し合いがなされた。



JB JAPAN の中でも国内と国際の意識の差から生まれる軋轢のようなものを感じるが多いため、情報共有のやり方ひとつで大きく変わることができることもあるのではないかと思います。

福德滉太(こうた)

Sr.IJR

IJBC参加2回目

今回のGlobal Conferenceで最も印象に残ったセッションは何といってもIJR選挙です。

IJR選挙は年に1度IJBCで行われるJBにとって最も重要なイベントです。

2019年度Sr.IJRにはブラジルのFloralに代わりポルトガルのPipaが、Jr.IJRにはインドネシアのNatashaが選出され2人の新たなIJRが誕生しました。

長年AJB(Americans' Junior Branch:北中南米地域のJB)とEJB(Europe, Middle East, And Africa Junior Branch:ヨーロッパ、中東、アフリカ地域のJB)のJBがIJRを務めておりAPJB(Asia Pacific Junior Branch:アジアパシフィック地域のJB)のJBであるNatashaがIJRを務めることはAPJBにとって、ひいては日本のJBにとって必ずやいい影響を与えると私は思います。

さらに印象に残った点としては、選挙がかなり盛りあがるという点です。

選挙前日、当日になると多くのJBが選挙について話始め、選挙中は選挙の様子がFacebook liveやInstagram Liveで配信され世界中のJBがIJBCに参加せずともIJR選挙の雰囲気を楽しむことができます。

来年度はぜひ日本のJBにももっと告知をし、IJRの選挙を味わってもらいたいと感じました。



木村緑(緑さん、みどり)

関東支部長代理,IPP部会長

GC参加2回目

[CISV International Programmes]

ファシリテーター;CISV のガバニングボードのグスタボとエイネブさん、国際事務局



3年前のノルウエーでのグローバルカンファレンスで採択された CISV の Vision を実現するために、プログラムの見直しを国際事務局が中心に行っている。それは段階的に行われ、現在は、2018 年4月～10 月までの第2段階で、外部の調査機関と連携してプログラムの見直しを進め、全支部を対象にプログラムの見直し調査が行われた。外部の団体が加わり調査はしているが、結果から 2018 年 11 月～2019 年 6 月にかけてその方向性が示されることとなる予定。

プログラムの見直し調査から見てきた結果

- ・プログラムの構成比率: VL38%、SU22%、YM 18%、IC14%、SC6%、IPP2%。
- ・プログラムで一番希望が多いのは、14-15 歳の SU。

- ・プログラム期間についてー・YM の8日間は短すぎる
- ・VL の期間が長く財政的にも人力的にも負担が大きい。
- ・19 歳以上のプログラムは比較的興味が薄い支部が多い。全体の3%が 19 歳以上の参加者で、45%の支部が IPP には興味がなく、約半数の支部が 21 歳以上のリーダーやスタッフに参加させる方を選んでいる。
- ・インターチェンジ(以下 IC)は、たった8カ国が全体の 2/3 の IC を開催している。ブラジル、アメリカ、フランス、イタリアで全体の50%を開催。
- ・どのプログラムを開催したいか？ VL86%、IPP28%
- ・プログラム開催の障壁は？ 1スタッフ探し、2資金、3キャンプサイト
- ・何がセールスポイントか？ 1 友達が世界中にできる、2楽しい、3英語が喋れるようになる。4参加費が他に比べて安い。

賛成反対の討論のアクティビティ

調査結果の説明の後、グループに別れ賛成反対の討論が行われた。

テーマは以下の通り。

- ・CISV に同じ年齢のプログラムが1つしかない。
- ・CISV はもっと少ないプログラムに集中したほうがいい。
- ・一番短い CISV のキャンプの長さは2週間とする。
- ・CISV はすべてのプログラム参加者の 50%を新規参加者とするべき。

討論は各グループから代表が出て行われたが、そのこと自体へのファシリテーターからのコメントはなかった。

(感想)

どの支部も、大会開催にはとても苦労しており、特にスタッフ探しはビレッジの開催期間の縮小を願う根拠ともなっている。また、YM では、8日間のプログラムは塾で忙しい日本の学生には好評だが、世界的にはあまり成果が出ない、せっかく旅費をかけていくのに、勿体無い、という意見が大勢だとわかった。IPP について、興味のない支部が多いとの結果を発表した時、セッション参加者の多くが反論の手を挙げ、そのこと自体が IPP に興味のある人も多数いる、とわかり面白かった。



大門樹久世(大門さん、きくよ)

東海支部長

[Cultural Competence and Leadership]

■目的:

氷山は、私たちが見ることができるのは海面上のほんの一部で、大部分は海中に沈んでいて見ることはできない。それと同じように、各国には固有の文化があるが、他の国の人が見ることができるのは、そのほんの一部で深い部分は一見ではわからない。つまり他の国の文化は外からみるだけではわからないことが多い。その点に気づくことがこの活動の目標。

■活動内容:

① 次のような短いスキットを見る

- ・男性が歩く後ろに女性が続く。女性はベールを被りすこしうつむいてあるく。
- ・男性が椅子に座り、その横に女性が地面に座る。
- ・男性が入れ物から食べ物を食べる。次に女性に食べるように促す。
- ・男性が女性の頭の付近に手をかざし女性の頭を下げる動作を3回行う。
- ・男性が先に歩き出し女性が後に続いて舞台から去る。

② その後で、以下の(1)～(3)について順番に話し合う

- (1) 何を見たか(例えば、「男性がいすに座り、女性が地面に座った」など)
- (2) 見たものの説明(例えば、「男性の方が女性より偉いので椅子に座った」など)
- (3) 自国の文化と照らし合わせて、なぜ(2)のように思ったか考える(例えば、「椅子に座るのと地面に座るのを比べたら、椅子に座る方が格上の行為」)

■解説:

上記の②の指示なしにこのスキットについての感想を求められた場合、多くの人はこの文化の問題点を指摘しがちである。例えば「男性だけ椅子に座るのは、平等ではない」など。私たちは日常、こんなふうに反応してしまうことが多い。

つまり私たちは普段何かを見るとすぐそれを判断しようとする、評価しようとする(「～するのはよくない」、「～は良い」、など)が、その判断は実は知らず知らずのうちに先入観や偏見に基づいている可能性がある。例えば、椅子に座るのと地面に座るのを比べた場合、地面に座る方が上等と考える文化があるかも知れないが、そんなことは考えず、すぐに判断してしまいがち。

それを②の(1)～(3)のように順を追って考えることで、当然と思っていた自分の判断には、実は気づいていない文化的背景が影響していることを知ることができる。

■感想

②の(1)～(3)の順を追うことで、自分が持っている判断基準がどこから来るものかを意識することができるという点で、とても興味深い方法だと感じた。事実を事実として、判断や評価することなく受け止めることが重要だが、その時に有効な対応が(3)だと思う。何か違和感を感じた時に、その気持ちは自分の中のどの部分がそう思わせるのかを内省すると、感情的にその違和感に対応せずに客観的に自分の反応を捉えることができると思う。常にニュートラルなものの見方を心がけるようにしてはいたが、さらに意識して物事に取り組みたいと感じた。

皆がこのようなことを意識してコミュニケーションをはかるようになれば、無用ないさかいをさけることができるのではないかと思う。



野上良治(野上さん、パンチョ)

関西支部長

How Does CISV Stay Relevant? と CISV and Today's World

この 2 つは連続 2 コマのセットで開催されました。それぞれのワークショップの流れは下記の通り。

How Does CISV Stay Relevant?

- ・ 8 人くらいで 1 グループになる(7,8 チームできた)
- ・ グループ内で参加者の国が直面している脅威についてリストアップ
- ・ グループ内で上記を踏まえ CISV の良さを伝える一文を提案しリストアップ
- ・ 1 グループ 2 件ずつ発表。それを Tweet する。(図 2)
- ・ リストアップした紙を壁に掲示(図 3)

CISV and Today's World

- ・ 先ほどのグループと同じ人が居ないように 8 人 1 グループに
- ・ グループ内で自身の地域社会で問題となっていることを報告しディスカッション
- ・ 発表はグループごとに下記の 2 つが与えられ、グループ内で 2 つに分かれてディスカッションし、発表
- ・問題となっていることに対する活動の提案
- ・問題となっていることを取り上げたアクトの提案

How Does CISV Stay Relevant? ではディスカッションの糸口として、図 1 のように紛争を抱える国の中で過去に参加していた国(イラク、リビア、マリ、ナイジェリア、パキスタン、シリア、ウクライナ)と、今も参加している国が提示されました。私は日本の直面する脅威として隣国が核開発を続行していることを挙げました。

チームとして発表したのは下記 2 つでした。

CISV : providing a platform for sharing knowledge since 1951

CISV : Peace through understanding

CISV and Today's World では参加者から多く出てきた意見は移民問題で、それが原因で貧富の差が大きくなっていることや、移動時に安全を確保するのにも気を使っているということでした。日本人とは直面している環境が違うなと感じました。これに対するブラジルの方の支部で実際にやっている活動として、「クリスマスパーティとニューイヤーパーティに承諾した会員の 1 ファミリーが 1 移民ファミリーを招待している。」とのことで非常に素晴らしいと思い感激しました。発表者も誇らしげでした。

この 2 つのワークショップを通じて、各国の参加者と CISV と違う話題で話げできたことも良かったし、多く同じ問題に直面していることに親近感が湧いたり、移民問題など日本でもトピックとしてあるけれど問題の種類や大きさが違う切迫したものを感じることができたりと有意義なものでした。

深井美貴子(深井さん、ミキ)

GC 参加 2 回目

特に印象に残ったセッション 1

4支部の皆さんにお伝えしたいこと



"Dialogue"という
Crossing Borders
Education制作の
映画鑑賞をしてから、皆で感想をシェア。

← 各国の代表がmotionに対し、一票を投じる。その前にはしっかりと質疑応答。



↑ Using PESTLE in Mosaic Creation



★ (右上) 映画の内容は、4人のアメリカ人学生と4人の中国大学の学生が香港と中国南西部を旅するとき起こる冒険、様々なカルチャーショック、各人のバックグラウンドと異文化理解を記録した68分のドキュメンタリー映画。参加者には日本人学生も一人いた。ただの楽しい旅行記ではない、8人でピッタリ一緒に過ごした旅を終えてからの一人ずつの正直な感想インタビューも内容が深かった。

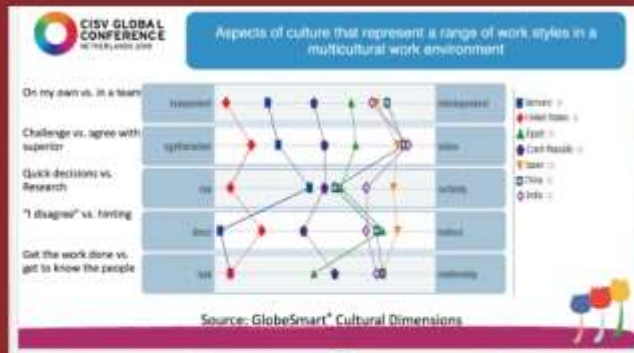
★ 私が一番誓いたのは、普段英語でコミュニケーションをとっていた学生たちが、ある時中国語で話をした時の、「わからない!」というENGLISH SPEAKERSの反応。子どもたちと私のビレッジでの体験を感想として皆の前で述べたところ、共感を得られた。日本語やスペイン語でハンドリングをやった時の子どもたちの反応がこの映画の登場人物に似通っていたことを話した。このような国際の場で、いつもまず英語で話す、聞くというハードルを超えつつ、問題に向き合っているアジア人として、NON NATIVE ENGLISH SPEAKERとして、声をあげたいと思っていることがこのような形で伝えられてよかった。

★ 支部委員さんたち、ステップアップ世代にもこの映画を皆で見て話し合うのはいいアクティビティになりそう。そして自分は何をできるか?これからどうするか?当日はこの映画の監督自身もこられていて、皆の意見を聞きたがっておられた。アンケートにも「この映画を自分自身の生活にどう役立てるか?」と問われていた。私自身でそのとき決めたのは、「もっと多言語をたくさん話す、色々な人と話す、話を聞く」。興味のある方は以下リンクを見てください。HTTPS://CROSSINGBORDERS.EDUCATION/FILMS/THE-DIALOGUE/

★ INSPIRATIONが真ん中にある写真は、最終全員セッション時。今回の自分にとってのGLOCOをONE WORDで表すと、、、を各々のスマホから送った直後の結果映像。文字が大きいものが、送った人が多いWORD

特に印象に残ったセッション2

←異文化適応力とリーダーシップ



←熱心なCISVer夫妻も赤ちゃん連れて参加。



★CULTURAL COMPETENCE AND LEADERSHIP (写真上左右と真ん中)

先入観やそれぞれの国のバックグラウンド、宗教観などから自分の考えが影響されていることを知る。意識にのぼっていることは全体の10%ほどにしかすぎない。トレーナーたちが演じた無言のスキットを見てどう感じたかを話し合ったが、多くの人が、男尊女卑を感じた。しかし実は??、。。。まさに体験型学習で、セッションは進められた。自身の行動、感じ方の傾向を改めて考えることのできる様々な質問にこたえる部分もあった。参加者を飽きさせない工夫が随所に見られ、トレーナーの技量を感じた。最後に見せられた各国人の行動傾向の表(写真左上)には皆苦笑い。最後に自分と支部とNAはこれからどんな異文化適応力をつけられると思うか?を書いて終わり。

★リフレクション・グループ

ノルウエーでも好評だったらしく、今回もグループが作られた。全員が10人ほどのリフレクショングループに分かれて、毎夕、分かち合いをする。このグループもDIVERSITYで構成されていて、年齢も国も様々。どこかのグループに所属できるというのは、話しやすい人ができるという意味でもシャイな日本人にも合っていると思う。



エネルギーに溢れたGC



★GLOCO中には真面目なセッションの中にたくさんのお楽しみも散りばめられていました。インドの独立記念日を祝う朝食では全員に国旗の色の帽子やバッジが配られました。会場の飾り付けも秀逸。前夜お手伝いしました。

★オランダナイトでは、全員が思いも思いのオレンジ色のコスチュームを着てグループにわかれ、オランダにちなんだ様々なアクティビティを楽しみました。←わたしのチームが優勝！チームAを両手で表現。

★最後の夜は、CISVERであるグアテマラのGABY MORENO（写真右上）のライブで大盛り上がり。可愛い上に声量が半端なく素晴らしい！たくさんの歌を歌ってくれ、会場の一体感はマックス。↑右下の写真をご覧ください。

★↑左下。初めてのCISV体験の写真を持参した人たちが、最終日パーティ会場に展示。それぞれの年代の“違い”と“同じ”が一目瞭然でした。

自分らしくGLOCOを楽しむ！

Mikiko Fukai (Miki Kansai)

今回も旧交を温め、新しい友人をたくさん作ることができました。

次のGlocoは3年後ですが、たくさんの人にぜひ参加していただきたいです。



★Pieces of Peace Project

Gloco開催の3ヶ月ほど前に思い立って、国際に投げかけた“Pieces of Peace”プロジェクトがとんとん拍子にオフィシャルプログラムとして採用されました。主旨は「今年のCISVのテーマはDiversity. Glocoはまさにそれを体現している場。一人一人は只のone piece だけど、みんなが集まればPeaceを作り出せる。あなたの笑顔と大切なモノを撮影します」というものです。毎日のコーヒープレイク時、昼食休憩時にたくさんの方を撮影させていただき、最終全体セッションでは、メキシコのYanelaが作ってくれた笑顔と大切なもののムービーが大スクリーンに投影され、たくさんの人に喜んでいただきました。9・21のPeace One DayにはこのプロジェクトもCISVとしての参加が予定されています。

★Big Group photo

フランスAIMからInternational Official Photographerとしてずっと全員集合写真を撮っています。今回も527人を撮れる場所探しからはじめ、広いホテル内を歩き回りました。1takeめはメンバーズミーティングが終わらなかったため、200人近くの人がいまま撮影することになり不本意でしたが、スタッフやみんなの協力で、2takeめにほぼ全員参加の集合写真を撮ることができました。左下は「セルフイー！セルフイー！」と叫ばれて、撮影した一枚。最終全体セッション時に、ステージから今回のプロジェクトなどの写真撮影の労いの言葉とともに「MIKI！JAPAN」と呼び上げてくれ、みんなからの拍手と「MIKI〜！」の歓声をいただき、大変だったことが全部吹き飛びました。（写真左から2枚目）

★Communication team

Gloco当日まで知らなかったのですが、今回はスタッフ以外にこのGCのためのCommunication teamが作られていました。国際本部のEmilyを中心として、各国からの2.30代の志願した若者たちが、Gloco中の撮影、SNSへのアップなどを担っていました。私も半分足を突っ込ませてもらって様々な撮影をしていました。結果的にこのグループの仲間にもなることができいい経験ができました。↓インドネシアAIM（2012）の時はまだ毎朝配られる紙の新聞で情報が共有されていました。2015のノルウエーでは、主な撮影者は私だけ、新聞はなくなり、会場にいくつかあるスクリーンやFB、メールで情報共有されていました。今回はたくさんのメンバーと参加者が今の情報をハッシュタグでどんどんSNSにあげていく感じで、時代は進んでいると肌で感じました。



特に印象に残ったセッション 3

4支部の皆さんに是非お伝えしたいこと



★VOLUNTEERS, THE HEART AND SOUL IN CISV (パネルディスカッション)

それぞれの立場、経験からCISVがどうやったらもっと良くなるかパネラーがヒントを出し合う。パネラーの中にはインドネシアのエスティ、JBでコミュニケーションチームで一緒にゴージャもいた。知っている人の話はとつきやすい。以下、印象に残った話。

・他の団体は、もっとそれぞれが何をしたらいいかわかっている。国連にはたくさんの職員がいてすごく成長している。お金を払ってプロとして仕事をして貰うことも必要では？新規の親御さんに長くかかる仕事を頼まない。まずは簡単にできることをお願いする。「関係性」が大切。「会話」と「理解」と「関係性」があれば続けてもらえる。お茶やワインを飲む会、週末の大人だけのキャンプなどSOCIAL EVENTをしているがうまくいっている。面接の時に聞いておいているようなスキルを持っている親御さんにトレーナーをお願いする。心理学者であったり、トレーナーであったりなど。TALENT POOLがあると良い。チャンスがあればGLOCOに来てもらう。JBにお金を使ってもらって、小さなタスク、短期間でできるタスクを一つして貰うと良い。

★FUNDRAISING FOUNDATIONS: DEVELOPING INDIVIDUAL AND ALMUNI DONORS

IO(国際事務局)のデニスと20人くらいの参加者が同窓会と資金集めについて語り合う。

・支部に「資金集め」を専門にやっている担当はいるか？との問いかけ。手は挙がらなかった。そういう人がいると良いかも。ALMUNIはCISVのプログラム参加者だけでなく、親御さん、ホストファミリー他、サポートした人も含まれる(18歳以上)。既に5万人に連絡をした。メールをチェックして下さい。ALMUNI ASSOCIATION(同窓会)の存在を知ってください。これはCISV国際の公式同窓会です。登録者から人材バンクを作っていきたいし、資金集めに繋がっていくといい。不明点は質問を。

平洋一(平さん、よういち)

国際理事

2018年8月14日から19日オランダのNH Eindhovenというホテルを会場として、CISV Global Conferenceが開催された。3年前に1度目のGlobal Conferenceがノルウェーのオスロ近郊で開催されたのに引き続いて2度目の開催である。3年前以前は各国の各支部の代表が集まるAIMという国際会議として開催されていたが、費用が多すぎるのと、各国の代表で討議する会議の効率が悪すぎる(つまり討議に時間がかかりすぎる)ことなどの理由で、多くの討議事項を会員から選定されたGoverning Boardに任せ開催頻度を減らして、3年に一度すべての国が集まってGlobal Conferenceという形で開催し、これが開催されない年は各リージョンつまりAsia Pacific (AP), Europe Middle East Asia (EMEA), North and South America (Americas)のそれぞれのRegional meeting (APではAPRWとも呼ばれているのは承知のとおりである。)でより密度の濃い議論をしようということになった現在Global Conferenceは、主にそれぞれの支部の代表が集まって、支部同士で交流し、互いの理解をすすめるいい機会となっている。

私は、前回のオスロのGlobal Conferenceに引きつづいて2度目の参加となったが、前回はNational Representative (NAR)になる前の見習いのような位置づけであり、今回初めてNARとしての参加となった。主にMembers Meeting (各国代表による全体会議)に参加することが主な役目となった。もちろん、いくつか並行して開催される各種の発表や研修プログラムに参加することもできるので、できるだけ興味がありそうないろいろなプログラムに参加してみた。したがって、1)Members Meetingに積極的に参加すること、2)各種プログラムに参加していろいろな知識を吸収すること、そして3)できるだけ多く既知や未知の人たちと交流することの3つが今回の目標となった

Members Meetingに先立って、NARがあつまる非公式のミーティングが開かれた。ただそこでは議論はせず、Members Meetingの内容のあらかじめ周知させるという会合が開かれたが、メールでの案内しかなかったので、参加を逃して人がかなりいた。ここで、あらかじめ議論が必要となる議題として a) CISV 国際プログラムの参加者の年齢条件を単純化するという動議(Motion)、b) 2030年までにCISVの教育プログラムの参加者数を2015年の2倍にするという目標の具体的な手法、c) Brett VotteroをHonorary Counselor (名誉法律顧問)に選定するという動議の説明がなされた。この非公式の会議では参加者が全員でなく、さらにコメントいうことを禁止されたので、参加者の意向が読めず、しかもあらかじめ根回しすることをConspiracyと呼んで何となく悪いことのように言う風潮が存在したので、当日の議論のふたを開けてみないと動向がわからないという微妙な情勢であった。それぞれの動議となるさて本題のMembers Meetingであるが、前回同様参加65か国の代表が自国の旗を前に掲げて会場の中心に向かって座るというやや物々しい会議であった。会議の前半はCISV Internationalの運営にかかわる承認事項が主でスムーズに進行したが、問題は後半、a)の提案は参加者の年齢をその年の年末できめるというものであって、その方がすべての参加者にとってFairであるという主張であった、しかしながらこのようにすると夏プログラムの参加者の平均年齢はVillageの場合10.5歳、冬プログラムで11歳となるというかなり重大な問題がある、提案者はこの問題を正確に説明しなかったのも、私はこの提案にはまだ検討不十分な点があり未完成はなかと質問したのであったがうまく伝わらなかったかもしれない。しかし近くのインドネシア代表が日本やアジアの国では年齢が少し若くなることが問題であるという私の懸念を説明してくれたので少なくとも参加者は問題を理解したはずである。しかも、これまでのプログラムに参加できる生年月日の範囲は15か月あったのが12か月となる問題も指摘された。しかし最終的に投票した結果なんと賛成多数で可決してしまった。おそらくUnfairという言葉は人々をより異常に納得させてしまうのかもしれない。問題はこれからのプログラムの運営がどうなるかであるが、各支部や部会でこのような決定に問題がないかどうか改めて検討してほしいと願っている。

そして、b)の提案は、i) 参加者を増加されるためのロードマップをつくる、ii) 2021 年に国際プログラム参加者の数を 2018 年の 10%増しとするという 2 つの提案に分けて議論された。採決の結果 i)は可決、ii) は否決となった。おそらくCISVの活動をどう増やしていくかについて基本的な合意が十分でないと思った。さらにc)では最も多くの時間を割いてもめにもめたうえで最終的に提案者が提案を取り下げるという形で決着した。ここでの問題はいくつかあるが、発言が特定の代表にかたよったうえ理解しがたいものもあってもめにもめ、これではもとの IBM(International Business Meeting－AIM の前身)に戻ってしまったとの感想もきかれた。私にとっての Members Meeting はやや不満の残るものであったが、事情が理解できれば対策も可能だし、問題のある決定についてはまた別の提案を後程すればいいと考えている。

さていくつかのパネルディスカッションや研修プログラムに出た結果、驚くほど価値の認められないものや、とても参考になるものもあったが、これについては別の機会に述べた。

では三番目の目標はどう果たせたか。まだ十分とは思えないがこれまで話したことのない国の人たちと知り合いになれたのは確かである。これからこれらの未知の国に行ってみたくなったのは確かである。

野田百合子(ゆりぼう)

副国際理事

IPP Community of Interest

野田百合子(ゆりぼう)

グローバルカンファレンスでは、毎日たくさんのセッションが用意されていて、参加者は自分が興味のあるセッションを選んで渡り歩く。セッションプレゼンター（講師側）になるには、事前に企画書を提出して書類選考、面接を突破し、アドバイスを受けながら自分のセッションに磨きをかけて臨まなくてはならないから大変だ。

これに対して Community of Interest というのは、「この指とまれ！」とあって、あるトピックに関心のある人たちが集まる機会です。通常はセッション外の夜や休み時間に行われる。そしてこの Community of Interest というのは誰もが思いついたらすぐにホストすることができるのがミソだ。

ある日私は、ガバニングボードがプレゼンターのプログラムレビューのセッションに出ていた。今年前半に各支部が回答したアンケートの結果が主な内容だった。そこではたくさんの興味深い結果が示されたのだが、詳細はほかの機会にゆずるとして、衝撃だったのは「80%以上の支部では19歳以上のプログラムにキャンセル待ちの人（行きたい人）がいない」、「45%の支部ではIPPには参加者を派遣しないし、関心もない」と答えたという事実。そのほか、派遣も開催もビレッジやステップアップこそが大事、IPPは参加者もなかなか集まらないし、集まったとしても全体のたったの2%というような結果も出された。スライドのタイトルは、その名も「19歳以上のプログラムには食指動かず」。また一方で、このセッションは全部で50個くらい質問が出されるような活発なセッションだったのだが、このような結果が示されたときに反発するような質問やコメントが何人もの人から出されたのも印象的だった。私はIPPが好きだけど、IPPは世界的な傾向としてもあまりよく知られていないし大事にされていない。一方で、世界には私と同じようにIPPが熱狂的に好きで大事に思っている人も一定数いるのだというのを肌で感じた瞬間だった。

IPPはInternational People's Projectの略で、19歳以上が参加する大人のためのCISVプログラムだ。パートナー団体に間に入ってもらい、現地のコミュニティの人たちと協力してプロジェクトを実行する。観光旅行ではなかなか触れることのできない現地の暮らしに触れ、彼らと関係を築き、一緒に何かを成し遂げる。田舎の村や大自然の中で行うことも多いし、参加者の多様性も魅力の一つだ。私は今までIPPに参加者として1回、スタッフとして2回参加した。IPPスタッフトレーニング



グのトレーナーも2回務めたし、来年福島で開催するIPPでもスタッフをする予定だ。



でもIPPは知られていない。それは日本でも世界でも同じだ。IO（国際事務局）でIPPを担当するヘレンと会うと、いつも「どうやったらもっとIPPを盛り上げられるかねー」という話になる。そんな折にこのプログラムレビューの結果報告。「IPPをこのまま消滅させてなるものか」という思いと、「世界のIPP好きな人ともっとつながりたい、協力したい」という思いがむくむくと湧き上がってきた。そして、このセッションが終わるころにはもうヘレンにメッセージを送っていた「ねえ、IPP Community of Interestをホストしない？」と。

時は8月17日の夕食後。この時間は色々な人が色々なCommunity of Interestを思い思いの場所でホストする時間だった。全世界の国際理事が集まったり、コンテンツエリアに関心のあるグループが集まったり、全部で10個くらいのグループができていたと思う。ポケモンGOでフレンドになろう！なんてグループもあった。その時間に、私とヘレンでIPPのCommunity of Interestをホストすることに。会場内の掲示板に書き込んで知らせたり、ヘレンからは全世界のIPP部会長に招待メールを送って、会場にいる人はぜひと呼びかけたりもした。

5人でも7人でも世界のIPP好きが集まって話せれば、そう思って始めたCommunity of Interestだったが、ふたをあけてみればなんと22人もの人が集まってくれた。最初は数人だったのが、椅子が一つ二つと増え輪が最後まで大きくなり続けたのはうれしい驚きだった。

まずは私とヘレンの自己紹介。そしてなぜこのCommunity of Interestをホストしたのか、この時間をどんな時間にしたいかを話す。そのあと参加者一人ひとりにもIPPとのかかわりを含めて自己紹介してもらった。そこでわかったことは、IPPが大好きで派遣開催ともに国でも活発にIPP活動をしている人が約半分。残りの半分は、今まであまりIPPに関心がなかったけれど、この機会にもっと知れた



いと思ってきてくれた人たちだった。私が自分のリフレクショングループで呼びかけたら、そこから4人も興味をもって来てくれたのも、野上さんや深井さんが来てくれたのもとてもうれしかった。

世界のコアな IPPer たちが集まって IPP の課題を共有し、もっと参加や開催を増やすにはどうしたらいいか戦略を練りたいと思って始めた会だったが、構成メンバーがそんな感じだったこともあり、実際は IPP Lovers たちが IPP の魅力について話すという要素が大きくなった。インドネシアのメティが「自分はもう歳だし、若者と一緒にやれるか心配だったけど、ルームメイトの十代の女の子と仲良くなった。最後には『あなたのように歳を重ねたい』と言われたの」という体験談をシェアしてくれたり。日本の IPP キャンペーン動画やふくしまでの IPP プロモーション動画を見せたら好評で、ぜひリンクをシェアしてほしいと言われたり。終始和やかに、でも途切れることなく手が挙がり続け、たくさんの人が IPP についてそれぞれの思いや気になっていることを話した。あっというまの一時間半だった。



もっとかっちりした会にしたかったら、できたのかもしれない。でも、私にはこれがグローバルカンファレンスの「らしさ」のように感じられた。たくさんの人が思いをシェアし、どこに行くわけでもないとりとめのない会話が続き、でもセッションの終わりには何かお互いに刺激を受けて、あったかいものを持って帰る。大好きな IPP を着に、そんな会をホストできたことをうれしく思う。しかもやりたいと思ってすぐに実行できたのも、何だか気持ちがよかった。参加した人たちとはメールアドレスも交換したので、この小さな IPP ネットワークをこれからも大事にして、少しずつ大きな輪にしていけたらと思う。

たった 2%だって、CISV の年間参加者数 1 万人（モザイクのぞく）の 2%なら 200 人だ。数としては少ないかもしれないけど、その人たちには確実にインパクトを残しているし、その先にいる PO やコミュニティの人たちにも、CISV にしかできない educational で inspirational な体験を提供することができていると思う。「ビレッジやステップアップこそ CISV」「数こそ勝負」のこの流れに乗って、消滅してしまうのにはあまりにも惜しい。こんな豊かな体験が世界の片隅で待っているのだから。

IPP のキャンペーン動画はこちら👉
<https://www.facebook.com/cisvjapan/videos/1204021426349335>

